

かえるのうた

第21号 2020・9月

ほんにかえるプロジェクト発行

編集責任者：汪 楠



永山 則夫（ながやま のりお、1949年6月27日－1997年8月1日）は、1968年から1969年にかけて連続ピストル射殺事件（警察庁広域重要指定108号事件）を引き起こした刑死者（元死刑囚）である。

ロゴセラピーと 無期囚の生きる意味

大塩 志野

1. 相模原障害者施設殺傷事件と 永山基金チャリティーコンサート

2016年7月26日未明、神奈川県相模原市にあった神奈川県立の知的障害者福祉施設「津久井やまゆり園」にて、元施設職員のUが施設に侵入して所持していた刃物で入所者19人を刺殺し、入所者・職員計26名に重軽傷を負わせました。動機としては「意思疎通のない重度の障害者は不幸かつ社会に不要な存在であるため、重度障害者を『安楽死』させれば世界平和につながる」という思想だとその後明らかにされました。この事件は障害者福祉の世界にもかなりの影響を及ぼし、すぐさま当事者団体や親の会が声明を出したり、施設の危機管理を見直したり、Uが薬物依存の傾向だったことを鑑み、措置入院制度の見直し議論にも発展していきました。

私は知的障害者の通所施設の職員として勤務しており、この事件を

相当な衝撃をもって受け止めました。私の接する知的障害の利用者さんたちも障害の程度は重く、言葉を介してコミュニケーションができる方のほうが少なく、大きな発作が日に何度も訪れる方も少なくありません。それでもご家族や周囲の人たちに愛されて今日まで過ごしてきた彼らを取り巻く日常は実にユーモラスで、笑顔にあふれ、一緒に生きることの幸せを感じさせてくれる日々なのです。障害者施設の職員として働く立場から言えば、この事件はあるまじきことで、Uのような思想は断じて許すことはできないと言い切ることが普通であり求められる態度なのでしょう。にもかかわらず、志をもって施設に入職した元職員のUにも確実に楽しかった日々の記憶はあるだろうに、どうしてこんな考え方になってしまったのだろう、何が彼をそこまで追い詰めてしまったのだろうかという複雑な気持ちが日を追うにつれて私の心のかなりの割合を占めていき、世論の風潮には何かしっくりいかないものをずっと感じていました。

そんな中、友人に誘われ「第 13 回永山子ども基金チャリティーコンサート」に行く機会がありました。予備知識もほとんどないままに参加してしまっただけですが、改めて活動趣旨を紹介します。

<4 人の尊い命を奪った 19 歳の少年、N こと永山則夫は第一審東京地裁では「死刑」、第二審東京高裁では「無期懲役」でした。第一審公判では「情状はிரらない」と、自ら死刑を望んでいましたが、自省とともに、貧困と犯罪のない社会を求めするために書き続けていた獄中手記は『無知の涙』をはじめとする作品としてすでに世に出され、その印税は彼が心から望んでいたように、被害者の遺族・遺児に届けられていました。彼は二審判決を受け、「これからも償いの作業が続けられる」と希望を持ったに違いありません。判決直後から小説『木橋』の執筆を始めます。

しかし、検察側の前代未聞の「量刑不当」、つまり何がなんでも死刑にすべきだ」とする上告の結果、最高裁では「原判決破棄・差し戻し」となり、東京高裁差し戻し審では「控

訴棄却」(第一審「死刑判決」維持)、そして最高裁の「上告棄却」で死刑が確定しました。裁判官ですら判断の分かれた「死刑」と「無期」のゆらぎの中で、彼の心と命は翻弄され続けたのです。

1997 年 8 月 1 日、処刑によって償いの作業は断ち切られました。しかし、遺言—「印税は世界の、日本の、特にペルーの貧しい子どもたちへ」の思いは、ペルーの働く子どもたちに受け継がれ今も生きています。>

(公式ホームページより)

コンサートでは、ペルーの働く子どもたちの紹介、演劇、絵本の朗読、映画上映、楽器演奏と進んで行き、最後に永山裁判にずっと関わってきた大谷恭子弁護士が今後の支援の継続を訴えられ、「彼を本当に死なせたくなかった」と大粒の涙を流されたのでした。わたしは初参加で活動への理解は不十分な状態でしたが、その涙には圧倒され、死刑執行から 20 年たった今でもこのように涙を流されるのかと深く感じるものがありました。

その思いが胸の底にずっとあり続けたため、翌年の「第14回永山子ども基金チャリティーコンサート」にも足を運びました。

第14回のメインプログラムは、「虐待と犯罪、そして再生—永山則夫の精神鑑定から」と題して、永山則夫の精神鑑定をした精神科医である石川義博医師のお話を大谷恭子弁護士が聞くという形でのトークショーでした。

石川さんは終始穏やかな語り口調で、大谷さんの質問に対してゆっくり考えながら答えていました。内容は、配られた資料にほぼ基づくものでしたので、全文を参照します。

< ところを理解するということ > — 永山則夫の精神鑑定をめぐって — 石川義博 (石川クリニック)

人のところを理解するというのは大変難しい。ヒトの脳の構造と機能は非常に複雑である上に、心は時と場所と相手によって千変万化するからである。まして、人間に反感や敵意を持つ者のところを理解することは至難の業といってよいであろう。しかし、全く不可能というわ

けではない。では、どうすれば可能になるのか。その方法を、連続4人射殺を犯した永山則夫（以下、則夫と略す）の精神鑑定を通じて述べてみたい。

精神鑑定では、犯行時の動機や精神状態の解明が求められる。そのためには、則夫との間に人間関係を築くことが必須となる。築くにはどうしたらよいか、それこそが問題なのである。

則夫の場合、筆者は精神鑑定を容易には引き受けなかった。既に、司法精神医学の大家による鑑定が行われており、凶悪な射殺魔と言われた則夫に内心恐れをなしていたからでもある。何度も断ったが、則夫が

「自分が犯した重大犯罪の悲惨が二度と繰り返されることのないようにと反省し、自分の心を開いた供述に基づく鑑定を受けたい」といっていると伝えられた。その言葉を聞いて、初めて筆者は重い腰をあげる気になった。覚悟を決めて精神鑑定を引き受けることにした。則夫の約束が本当ならば、彼と人間関係を築き、彼の犯罪に至る心理や行動を解明する可能性があると考えたから

である。
面接の方法としては、土井健郎先生から学んだ「精神分析的療法」を用いた。どの精神療法を適用する際も相手に話してもらう時は、顔を見て真剣に聴くこと、時間をかけることなどは基本中の基本である。面接の最初に、筆者は「あなたのペースでいいから、小さいころ一番初めに覚えていることから話してください」と声をかけた。

則夫の答えを以下に記す。「んとね……、帽子岩近くの海岸、白いね、なんていうか、ほら貝かな、それが浜辺にいっぱいあったよ。それでセツ姉さんが一緒にいて、あれ、帽子岩って記憶しているんだけど、帽子岩のあたりが海なんだ。それで貝を僕が海に投げてたみたい。セツ姉さんにおんぶしてもらったこと覚えている。あとね、あれは網走湖かな、その近くでね、海老が大根についてね、それをとって遊んだりして。そこにセツ姉さん、いたよ。5歳くらい、おふくろの記憶、全然ないんだ。親父の記憶もないんだ。セツ姉さんしか、女の人……」。断片的ではあるが、一所懸命話してくれた。

この最初の発言は極めて重要である。それゆえ、則夫から話されたままの形で記録したのである。特に、4回も話されたセツ姉は、則夫の人生のキーパーソンであることが判明した。

その後も、則夫には自由に喋ってもらった。次々に思い出が広がり、幼時から小学校時代に至った。そこで筆者は不思議なことに気がついた。ずっと不登校を続けていた則夫が、小学5年生の時に限って欠席日数がわずか6日なのである。そのわけを尋ねたが、なぜか則夫は答えてくれず話をそらした。これは抵抗であり、何か事情が隠されているなど直感したが、あえて問い詰めることはせず、話してくれるまで待つことにした。4度目に水を向けた時、則夫はようやくセツ姉が帰って来て勉強をみてくれてやる気が出た事実を話してくれた。

しかし、それほど良い話の筈なのになぜ口を噤んだのか、新たな疑問が湧いた。謎は容易には明かされなかった。筆者はひたすら待った。何度も何度も躊躇したあげくに話してくれた内容は驚くべきことだ

った。それによると、ある日学校から帰宅した則夫は、セツ姉が近所の男と情交し、虚脱している光景を見てしまったという。家族の中で唯一自分を可愛がってくれ、則夫が母のように慕っていたセツ姉は、その瞬間、穢らわしい、反吐を吐きそうになる存在に変わってしまった。則夫は大好きだったセツ姉に対してでさえ、不信感と絶望感を抱き、深刻な抑うつに陥った。この出来事は、以後の則夫の人格の発達や人間関係のあり方に大きな障害をもたらす要因となった。則夫のこの苦しい胸中を知って、筆者は初めて則夫が小学5年時の好成绩を話し辛かった気持ちが深くわかったように思えた。

その後、則夫は憑き物が落ちたように、人生体験や犯行動機などを一層詳しく話してくれるようになった。東京や京都での射殺事件は、警備員から逃れたい一心からの衝動的犯行であった。函館の事件は、殺人だけでなく強盗まで犯し、動機が不可解とされていた。これは則夫が追いつめられ自死を覚悟して次兄に告白したにもかかわらず、彼が

「どうせ死ぬなら熱海でいいじゃないか」と突き放した仕打ちに対する「当てつけ」からの犯行であった。名古屋の事件も、幼時から則夫を無視し冷淡だった三兄への当てつけからの犯行であったという。家族内での差別や虐待が則夫にいかほど深刻な心的外傷を与えたか、自死か殺人かという切端つまった行動に走らせてしまったかを、明白に物語っている。

以上永山則夫の精神鑑定を例にあげ、どのようにして人のこころを理解していくかを概説してきた。人には、こころを分かってもらいたい、こころを分かりあいたいという思いが本能的に存在する。分かりあえた時の気持ちの良さ、清々しさは万人に共通する感情である。

則夫もセツ姉との心の葛藤等を話し、分かってもらえたと分かった時、転機が生まれた。則夫は、こころを開いた話し合いを重ねる中で自分の人生を省み、なぜ犯罪を犯したのかを洞察するに至った。同時に、被害者や家族への贖罪の心も芽生えた。ついには、怨み憎んでいた母をも赦せる心境に至ったのである。

永山則夫の精神鑑定を通じての全過程は、そのまま、こころの治療を目指す精神科臨床に適用されるといえよう。筆者は、そのように考えて、日々、精神療法中心の診療を営んでいる。

初出：「心と社会」2015 巻頭言

精神鑑定は280日、100時間に及ぶものでしたが、永山自身からも「これは自分のことじゃないみたいだ」と否定され、それ以来石川さんは二度と精神鑑定をすることはなかったといえます。ところが、死刑執行後、その分厚い精神鑑定書が永山の独房に残されていたのがわかり、石川さんの手元に届けられました。書き込みや印や線が引かれた永山の手の跡が残る鑑定書を渡された石川さんは「知らなかった」と、鑑定書を「触っていたんですね」とさすりながら涙を浮かべられていたといえます。

「もっと早く知っていればね、表面的な言葉（永山の「自分のものじゃないみたいだ」）だったのかもしれないけど、僕は真面目だからまともに受けちゃったですね、僕の人生を

変えましたね、それがなかったら、きっと犯罪精神医学をもっともつと研究していたでしょうね、悔いはないですけどね」と話されていました。

石川義博さんの話を聞く機会が与えられ、わたしは改めてやまゆり園のUのことを思いました。人の心の中は本当に複雑です。永山とUは育った時代も環境も全く違いますし、人間社会の持つ病巣や偏見が個人に及ぼす影響も様々であると思われれます。犯してしまったことの重さは一生かかっても償いきれないものかもしれません。それでもなお、Uにとって石川さんのような人が一人でも現れ、こころを理解してくださることを願うのです。

（続きは次号に掲載する予定です。）



落日の 空どこまでも 茜いろ

コロナ禍の影 春夏秋冬

代表 田中伸彦

九月の長雨の後、秋の気配が日ごとに増して肌寒さを感じるようになりました。季節の変わり目を皆さま如何お過ごしでしょうか。

今年の初めから続くコロナ禍が収まる様子もない世情の中で、人びとがどことなく苛立ち、心の落ち着かない日々を送っています。

諸行無常とか有為転変とかの言葉を思い浮かべても、私には移り行く季節の中で今まで当たり前のように過ごして来た日常が、決して当たり前ではなく多くの幸運に恵まれていたのだと気付かされる今日この頃です。

大きな自然の営みの中で生存し続ける人類という生き物は、その自然がもたらす様々な影響の下で生かされているのだと思います。

私たちは先人の生み出した文明や科学、また叡智や努力や勇氣によって、自然と折り合いを付ける道を探って長い歴史を紡いで来ました。

しかし私はこの 21 世紀の初めに遭遇したコロナ禍と呼ばれる脅威の中で、もう一度立ち止まり、自らの依って立つ足元を見つめ直す時間を与えられたのではないかと思っています。

その昔「人が最後に罹る病は希望なのだ」と言った人がいます。

惑星の一つである地球という生命体の中で、暴れてまわるコロナウイルスの彼方に一人ひとりがどんな希望を持つ事が出来るのかを、私たちは問われているのではないのでしょうか。

やがて 2020 年が過ぎていきます。





内部会員0.

前略、新涼の候、長月となりました。

温暖化によるものか、今年の梅雨期間が非常に長く、しかも、想定外の豪雨が続き、浸水、河川の氾濫、土砂崩れなど、各地に多大な被害をもたらしました。また、やっと梅雨が明けたと思えば、連日記録（葉月の月間平均最高記録更新）的な猛暑です。

新型コロナウイルス第2波感染の中、熱中症対策を心配しながらも、マスクが外せない状況です。

31日も37度を超す猛暑、このままだと長月になっても、当分猛暑が続くと思っていたら、台風9号、そして10号が発生、本土に接近中とか。

お陰（などと書くと被災地からお叱りかも）で、懲役にも少し強めの風が居室に吹き込み、また、一時的に雷雨があつて、気持ちよく寝れました。

8月11日、庄子様からの信書を受

領しました。

庄子さまは、私の送金（会費10年分¥20,000円）に関し、「——この先10年間、かえるP Jがつづいているかどうかわかりませんので、とりあえず今年度と来年度の分をいただき、残りは<預り金>としてお預かりいたします。現在の預り金は18,463円です。何か私どもに依頼したいときにお使ください。——」と、誠にありがたい心遣いに感謝いたします。

生き馬の目を抜く、この世知辛い世の中、貴会の活動（受刑者の更生支援、協力）の真実一路に感銘。人の愛と真心に触れ、臉を熱くしました。ありがとうございます。

私は、政府が新型コロナウイルス感染の自粛要請による経済支援として国民に一律100,000円の給付金決定。市役所福祉政策課から現金書留（特別定額給付金100,000円）があり、当刑務所会計課より告知、領置金に納入。

当刑務所の規則では、領置金所持者は報奨金使用限度額があつても使用できないことになっている。

私は犯罪者で、国民の尊い税金から

衣・食・住が保障されて34年目、80歳の大台にまで生かされている。この度の特別定額給付金には感謝、嬉しい気持ちと心苦しい気持ちが交差して、考慮、思案のすえ、このままでは領置金は数年の内に無くなる。死金として消費して無になる前に、少しでも社会に貢献できることに使用。この先、何年、神はわたしを生かされてくださるのかはわかりませんが、給付金は生きたお金として使用され、国民にお返しすることになります。

私は、①被拘禁者更生支援ネットワーク麦の会、②NPO法人マザーハウス、③ほんにかえるプロジェクト、④子どもと法・21、の4つの会に入会。

①、②、③は受刑者の更生支援をされているボランティア活動の会です。④は、東京の某弁護士が中心になって、子どもの教育と法制度を考える21世紀市民の会、特に未成年者の少年法改正に反対して活動されている会です。

私は、①の会の年会費の10年分20,000円と、②の会の年会費の10年

分30,000円と、③の会の年会費の10年分20,000円と、④の会の年会費の5年分15,000円と、計85,000円の送金手続きをしました。

庄子様の温情に甘えて、ご依頼いたします。

私は囲碁・将棋を趣味にしています。そこで、囲碁年鑑・将棋年鑑の一年(2019)落ちか、二年(2018)落ちのもので予算はそれぞれ1,000円くらいで購入できれば幸甚です。プレミアムがついて高い場合は辞めます。

かえるPJの事務局長さんとは、当刑務所で同じ工場で服役していた際に、将棋を指したりいろいろと懇意にさせていただきました。その彼が出所して、受刑者の更生支援に、ほんにかえるプロジェクトを設立されて5年。

私は嘘八百の受刑者の中から本当に更生されて頑張っていることが本当に嬉しいです。

以って、私は、庄子様の心遣いの<預り金>の内から金壺万円也10,000円を貴会の賛助金として寄付させていただきますので、よろしくお願ひします。

台風10号の列島接近により少し過
ごしやすくなっていますが、日中は猛
暑が続いています。

また、新型コロナウイルス第2波の
感染が続いています。熱中症とともに
体調にご自愛ください。

かえるPJの事務局の皆様の健康
に、益々のご活躍を、心よりお祈り申
し上げます。

事務局長さんによろしくお伝えくだ
さい。

乱文乱筆、勝手を申しました。ご免
ください。

かしこ

令和2年9月6日、一時雷雨



内部会員 N.

庄子よりNさんへ

昔読んだ小木貞孝(加賀乙彦)は「死刑
囚と無期囚の心理」という本で、死刑囚は
「非常に凝縮された時間を生きていて、毎
日が大変忙しくすごす」が、一方、無期囚
は「非常に引き伸ばされた時間を生きてい
る」、そして「起伏のない日々の中で躁鬱が
欠落し「拘禁ボケ」状態に退行する傾向が
見られる」と述べています。でもNさんのよ
うに前向きな方を見ると救われる気がしま
す。

N.の返信①

「死刑囚と無期囚の心理」に書かれて
いる、庄子さんが私に書いてきてくれ
たことは、“正に”本当だと思います。
私は死刑囚になったことはありませんので、そちらのことについてはわ
かりませんが、日々“死”に向かって
いるのだから毎日を多忙とするのはよ
くわかります。手紙を書くのだって、
内容が濃いものになるでしょうし、
色々と慌ただしく生きていると思いま
す。ただ、それは本人がそう感じてし

まうのであって、ビデオカメラかなにかでその人の行動などを見ている人からは無駄な動きをしていると思うことが多いのではないかと思います。

私も既に執行されて彼の世に行かされてしまった者ですが、3人ほど知り合い・仲間がいます。一人は水戸少刑で仲が良かった者で、出所後、何度となく連絡を取り合った者で（静岡で女の子にガソリンをかけて殺した）それを知ったときは驚きました。もう2人は、私が昔にいた組の者（ファミレスで相手を射殺）です。私が知る限り、皆ジタバタもしていなかったし、正直こっちが驚くぐらいあっさりしていました。

無期の者の事はハッキリ言えますが、確かに“非常に引き延ばされた時間を生きている”は正しく、それにより歪んだ拘禁病が発生しボケる人もいますが、何より死んだように生きてる。ゾンビのような人間になる者の方が多い気がします。私としては、いくら出れようが出れなかりょうが我慢は大事ですが、男は捨てられませんか。そう思っている人は庄子さんの本の無期には当てはまらないと思います。私がここ

で見てきた無期の者にいくつかのタイプがあります。タイプをあげてしまえば色々ありますが、大きく分類すれば

- ① 出れると信じて生活してる者
- ② 出れないと諦めてる者
- ③ 年齢的に出れる可能性があるのに悲観的な生活をしている者
- ④ 年齢的・生活(懲罰など)的に出れないのに出れると思っている者
- ⑤ 出れるのか出れないのか迷いながら生活している者

だと思います。

私は今まで（以前は）③に分類されたと思いますが、今は①と⑤が交わり合いながら生活している感じです。これも“友”のおかげだし、私を大事に想ってくれている仲間や、応援してくれる者のおかげです。本当は①です、と胸を張って言いたいところですが、やはり出口が見えず光が見えない中では躓いてしまうのは仕方ないし、これが本心、本音であり、真実だと思います。

だから私は今、友や大事な人間との約束もあるので、とにかく懲罰になるようなことはせず、誰からも明るい人だと思われるよう、毎日明るく人の信

頼と大切な私の資産を失わないように、だけど男は捨てずに生きてます。

正直、毎日、何の変哲もない生活で嫌になりますが、毎日大事な仲間と生きていることで、自然と笑いが出て楽しみが出てきます。私は、すごくそういう所、恵まれてるなと感じます。

今書いた、“資産”と言うのは、以前ある人に“俺には何の資産もない”と言った所、金にならないけど“絆”や“仲間”“友”というのも資産だよ、と言われたことがありました。その時は“へえ〜”と右耳で聞いて左耳から抜けている感じでしたが、その後、簿記をやる様になり、2級になると、“資産”の勘定科目の中に、“無形資産”というのが出てきて（ご存じだと思いますが、無形資産とは特許権とか著作権とか無形の固定資産のこと）、その時に、ふとその以前言われた言葉を思い出し、自分の中で色々と考え、自分にはもう何の財産も資産もないし、ここには何もできない、でも形にならない絆や友情や信頼というもの（特に友情・絆で信頼は当然それについているものだから）が、自分の資産になるならば、この腐った刑務

所の生活、世界にいても無形資産は増やすことができるんじゃないかと思いい、自分なりに人の信頼を失わないように明るく生きてきました。

何を馬鹿なこと言ってんだ、そんなのは資産じゃないと言われるのはご尤もなのですが、それでも私はそれを糧に生きてきました。決して褒められる生活ではありませんでしたがそれによってとても大事な“友”をはじめ、何人もの信頼できる仲間も得ましたし、それによって私の今までの素行不良な生活も改めることになり、先の無期囚の③だったものが、①と⑤に変わり、今では懲罰は受けない、絶対工場を変わらない事を胸に生きています。これも私に無形資産があるからで、自分では何よりも高額な資産だと自負しております。

そんなこんなから今いる7工場には、まだ半年弱しかいませんが、先日から班長を任されることになり、自分なりに1日1日を大事に生きています。“友”にも知ってほしいです。コロナにかかっても多分、びくともしませんよ。たしかに毎日同じことの繰り返しで、仕事も単純作業。だけど私は

無期の苦痛である“出口が見えない”ことを逆に利用してるので、有期刑の人のように“後、何日だ”と出所を気にすることがないので、1日1日、1か月、1年とあつという間ですので気も楽です。毎日楽しく生活してますよ。本当に楽しく生きてます（刑務所なりにということですが）。

ただ、これからは生活に注意して生きることができるようになったのなら、出所するために社会の友人関係（外部交通）や手紙の内容（官に対する悪口や反省のないような手紙）に気をつけろと口を酸っぱく大事な人から言われています（笑）いつの日か来る面接でずいぶん言われるらしいです。ま、それもこれからの生活とともに変わっていくと思うし、そう努力していくつもりですので大丈夫です。

庄子よりNさんへ

フランクは「与えられた事態に対して、どういう態度を取るかは、誰にも奪うことの出来ない、人間最後の自由である。この“態度価値”が存在するということが、人生がどんな時にも意味を失わない、どんな時にあつても人生には意味があると言える、最終的

な根拠である」と述べています。実際アウシユビッツでは強靱な体力がある人ではなく、ちょっとした楽しみを見つけて楽しめる人が生きながらえたそうです。Nさんが大切にしている「男を捨てない」とはどんなことですか？

N.の返信②

私の考え方とフランクルの考えは似ているところがあると思います。受刑生活（無期の先の見えない）とアウシユビッツとは比べものにはならないとは思いますが、たしかに態度価値は存在するし意味があると思います。私の場合、何の本かTVか、正直もう忘れてしまったのですが、一つの言葉を常に心にとめているのですがこの言葉もある意味フランクルの考えに呼応するものがあるのでは、と思います。その言葉は単純なのですが、“心に自分だけの城を持て”です。ようは、どこにいても自由に、心だけは誰にも侵略を許さず、誰にも文句を言わせない城をもて！ということです。

私も今、丁度『アウシユビッツのタトゥー係（ヘザーモリス著）』という小説を読んでいるのですが、アウシユ

ビッツに比べれば刑務所など天国だし、反発心の強い私などはすぐに殺されてしまったらと思うのですが、フランクルの考えは共感できる。自分を見失わないよう、いかに楽しく生きられるか、このなかでは無期の私達にとっては先の光を見ても暗闇にガッカリするだけなので、まずは自分の今の足元を。自分の足元ならハッキリ見えるし、ある程度は良い悪いの判断もできる。そう思ってます。だから、この無期という刑に負けてなるもんか！という負けず嫌いの気持ちが緩やかに変化したものではないかと思います。片意地張ってもいいことないし、どんな場所どんな時でも楽しいほうがいいですしネ。

ただ、そんな中でも“男は捨てない”ってことです。庄子さんに答えを求められている言葉ですが、説明するのは少し恥ずかしいし、難しいですネ。やっぱりひとそれぞれ考え方があるとは思いますが、私の“男”とは、2つあって、見えるものと見えないものがあります。とはいえ“見えるもの”はおマケの様なものであって本当に大事なものは“見えないもの”。私が

思う“男を捨てない”とは自分がどれだけ損をしようが、皆が間違いだと言おうが、自分の大事な者、大事なものの為には立ち上がることです。自分の大事な絆や誇りを貶めさせないってことですかネ。よくこの中でも社会でも大事な人の事をバカにされても問題を起こしたくないから、とか懲罰になりたくないから、とか損をするからとか聞かなかったふりをしたりする者がいますが、私は性格上、それなら死んだと一緒で許せません。なかには家族や子供の事まで言われて、無期だからと我慢してる者もいて言う方も言われる方も私は許せません。

まっ、事の大小はあると思いますが…判って貰えましたか？

でっ“見えるもの”というのは身だしなみです。女のいない刑務所だからって鼻毛が出てても平気な奴、穴があいたくつ下や下着をずっと使っていたり、その他いろいろな身だしなみです。そういうことが平気な人を見ると私は、こいつ“男捨ててんなあ〜”って思うのです(笑)。まっ、何にしても信念をもって生活することです。格好つけてすいません(笑)。



事務局長 汪 楠

このコーナーはいつも内部会員からのお手紙を掲載しています。一方ではPJのスタッフからの手紙を掲載することはありませんでした。今月号は私が書いた返事を掲載したいと思います。

〇〇さんへ

お手紙ありがとうございます。

早速本題に入ります。私は性犯罪者への入会を反対していました。私の意向でPJもごく最近までの数年間は性犯罪者はお断りしてきました。自己申告ですから誰が性犯罪者はわからないものですが、断ってきた理由は主に二つがあります。一つはPJのスタッフは女性率が高く、性犯罪に対しての反感が大きかったこと。もう一つは性犯罪は治療を必要とする特殊の犯罪で、私たちでは太刀打ちできないと思っています。これと同じ発想でPJでは薬物犯罪者も断ってきました。

大変正直な手紙に私は少し心が揺れ

ました。実は私もヤンキー時代にかなり強引なナンパをはじめ、ヤンキーがたまる公園や駅前にいるにいたるヤンキーと一緒にいる女の子を強引にセックスしたことがある。あの頃はそれは認められていると勘違いしていました。地元の江戸川区、足立区、江東区のような低収入地域というか、ヤンキー激戦区では一般的なことでした。世間はこれを強姦犯罪として認識されていることすら知りませんでした。

このように自分ではみんながやっていることと考え、何の悪気もなくやっている行為で実は多くの女性が傷つき、人生を狂わせられた人も多いことを特に男性としては真剣に考える必要があります。

もっと言えば夫婦間やカップルでもやりたくないときに性行為を強要すればレイプになるのです。それをヤンキーの時はその公園は犯される場所で、そこにいたらやられても仕方ないと考えていました。

少し前テレビに出ました。それを見てSNSで強姦被害女性が連絡を取ってきた。その女性はホステスのバイト

をしていた時、私が所属していたグループの人にキャバクラのトイレでレイプされたという。SNS のメッセージには私を応援していますとありました。またそれほど責めている文面でもなかったのです。ただ自分が更生しても、過去に犯した犯罪で人生が狂った人もいることを忘れないで下さいと書き添えてあった。

私は悩みました。確かに私は正しいと信じていることを今はやっているつもりです。でも悪の当時もそうでした。そして今も少なからずそこにいた女性が悪いという考えが脳に過ぎります。反省とは何かにも通じる問題です。

(ここにこの内部会員の性犯罪事件の記事と掲示板の書き込みがありました、プライバシーのため、省略いたします)

これを見るとこのひとはクズですね。掲示板ではもっといっぱい書かれていました。でもバーナー広告は幼女わいせつの漫画でした。性犯罪容疑者は逮捕された時点でネットにさらされ、叩かれます。でも書き込みをして

いる人も程度の低い連中と思う。もしかしたらこの人らこそ性犯罪予備軍とすら私個人は思っています。性犯罪も語弊を恐れずに言うと、一種のフェティシズムで、LGBT に対しての偏見と批判されるかもしれないけど、私個人の経験ではレイプとホモの話題になったとき、過剰に反応して誰よりも批判している奴こそその張本人という見方を持っています。

性犯罪はクレプトマニアや薬物乱用と同じレベルで、治療を受けなければ自力で更正するのは難しいと思います。〇〇さんの言葉はそれなりに重く、深く考えた末に書かれた言葉と思います。でも家族に申し訳ないだけでは再犯を防げないと私は思います。犯罪のプロからしたら、数百件も自供したあなたは馬鹿だけど、でもすべてを話し、刑事にうまく乗せられた部分がかったにせよ、〇〇さんの中では悔い改めようとしたのではないかと推測できます。一方では男性同士として疑問に思うのはそれだけの件数をやっていたらもはや性癖ですよ。性癖だとしたらお金を出しても風俗では満足でき

ませんよね。出所後はその辺をどう考えていますか？ネットでそっち系の画像動画をせいぜいと集めて満足できるのですか？いずれ結婚するならパートナーにその性癖がばれたらどうするのですか？そもそもネットがこれだけ発達している時代です。〇〇という名前で結婚どころか就職も難しいですよ。

ネットの書き込みを裁判所を通じて消すことが可能です。お金もかかるけど、そこまでして何のために消すのかも疑問です。被害者の傷も癒えないのに自分だけ普通の生活に戻りたいのですか？といわれますね。

養子縁組をすれば、あるいは母親の旧姓を名乗る方法でも性犯罪者の〇〇とは表面上は別人になれます。ほとんどの人はそうしています。でも私も受刑者でしたし、受刑者の更生支援を6年もやっていけばその辺のことに詳しくなります。私の知っている何人かは性犯罪者以前にサイコパスでした。あなたは？あなたの言葉は真実ですか？更生支援をする団体だからこういう言葉に弱いと思って書いてくる人もたくさんいます。でも自分の人生をだませ

ないのです。自分で背負わなければならないからです。犯罪にも貴賤はないと思います。ましてや私も性犯罪者でした。その罪を背負って生きていくのは並大抵のことではありません。それこそ毎日意識しなければならないのです。

反省とは何かは大変難しい問題です。ここで議論する気もない。でも私自身は忘れることなく、常に罪を意識することが大事と思います。説教ではありません。私の考えです。でも罪意識をいつまでも持っている病んでしまうのも事実です。いまでも刑務所でピンクと呼ばれているかもしれない。それにイラつくなら事実を否定していることになります。でも人間だから、被害者でもないお前に言われたくないという気持ちも当然出てきます。その辺の折り合いをどうつけるつもり？あるいはどう折り合いをつけていますか？

私たちが刑務所に行くのは罰であり、罪は自発的に感じなければ存在しないものです。いまでもあの子たちを思い出すことがあると思います。それ

を性欲発散の対象にしていますか？私でもないとは言いきれません。ではあの子たちのその後の人生を考えていますか？怖くて恋愛もできないかもしれません。上目線で正論を語っているわけではない。私たちはそれを背負っているわけです。

こんな重い手紙を受け取ったら気分が落ち込みます。私なら熱も出るかもしれません。でも悪意はない。私も忙しい。会員全員にこんな長い手紙を書く時間はありません。私はある意味あなたを通じて自分自身の罪を考えています。ご理解ください。では。



事務局長 汪 楠

〇〇さんへ

お手紙ありがとうございます。

本の寄付は大変助かります。郵送でしか受け付けていませんが、それも出所してから打ち合わせをしましょう。

無償本の郵送は大変難しい作業です。かえるのうたでは繰り返し説明していますが、帯広刑務所が5冊と制限

されていると知っていても、こちらとしては1回5冊も発送できません。いまのゆうメールの特約は厚み2センチまでとなっております。A4サイズの大きさで、500グラムまでは133円。1キロまでは188円。2キロまでは284円。文庫本なら4冊が限界で、約1.5キロで284円で発送しています。

では正規の料金はどうなっているかというと、500グラムまでは310円。1キロまでは360円。それ以上は規格外として別の料金になります。規格外は500グラムまでは510円。1キロまでは710円。2キロまでは1040円。4キロまでは1350円。もしそちらの指定で5冊を発送しようとする、郵送料金は2回分だけでも2700円もかかります。PJの慣例の方法では752円で済みます。1回で5冊も郵送差し入れが可能なのに、なぜ4冊とか、重い場合は1冊で送ってくるのですか？という苦情が来ることもあります。いまでも事務局に出所した会員が手伝いに来ています。発送作業をやってみるとその大変さが分かります。

私が経営しているガールズバーは男

性客は1時間2500円、女性客は1時間1500円。ハウスボトルは飲み放題。カラオケは1000円歌い放題。ボトルは原価の3掛け、3倍の値段で売っています。多いときは15万円の売り上げもあるけど、利益はその10%で、ほとんどは女の子の給料で消えます。

人工出しの仕事を言っているのかな。土工で18000円で仕事をもらい、12000円で人を雇い、広告料などの経費を引くと、残りはその半分の3000円かな。仕事をもらうのも大変だけど、職人も集まりません。広告を見て頼ってくるのは訳ありばかりで、前借りとかは当たり前、当日欠勤も当たり前、その責任を全部取られます。

私はお金儲けにはもう興味がない。私の周りにはスポンサーになってくれる社長さんが何人もいる。でもコロナで何もできない。

歌手の知り合いはいないけど、新宿のライブハウスで有名なロフトワン系列があります。そこの支配人と友達で、スタッフとして出入りできます。バンドやB級アイドルのライブによく

行きました。

飲食店の居抜きは専用のサイトもあり、割とすぐに物件を見つけられる。でも割高ですね。私のところでやりたいなら、まずは働き、その能力を見て判断する。お客様の中にスポンサーになりそうな人がいます。物件は私のルートで見つめるとかなり安い。経験者ならわかると思いますが、つぶれた店を見つけ、スケルトンで返さなきゃならないところに付け込んで、不動産会社と交渉し、現状渡しで借り、スケルトンで返すという方法で賃貸契約を結びます。この方法なら前のテナントは居抜き料が手に入らないけど、スケルトンにする解体工事費が節約できます。不動産屋にしてみれば、すぐに次の借り手が入るので喜びます。

コロナウィルス騒ぎでほとんどの昼の飲食店は19時でラストオーダー、20時で締めます。シャッターを閉め、コソコソ飲ませてくれるところもあります。でも保健所のGメンが回っているし、見つめれば自粛要請に応じてもらえる給付金の詐欺になるから逮捕される可能性があります。夜の飲食

店は自粛要請に応じる気はないけど、客がないから締めているところが多い。金曜土曜だけ客がいるので営業するところが多い。私の妻が経営しているスナックもそのスタイルです。

私が経営するガールズバーは毎日営業していたけど、店長がクズで、トラブルが多かった。数日前に客に殴られ、眼底骨折で手術をすると言ったきり、逃げました。女の子をも連れての逃亡とみなしている。地元でかばう人もいるから、預けた売上げを回収せず、持ち逃げされた形でクビにする予定。新店長は昔に使っていたもうすぐ60才のベテラン。いまは事務仕事をさせている。元々会計事務所にいたからいくつかの店の確定申告を手伝い、どうにか生活できている。そしてコロナウィルス騒ぎで給付金請求のオフアーが多く、忙しいようです。

私自身はウィルスバスターというクビにぶら下げるウィルス除けをつけ、マスクをして毎日外出している。先日は自転車に乗り、マスクを顎につけたままタバコを吸っていたら変なおっさんにいきなり肩パンされた。自転車か

ら降り、なんですかと聞いたら、やるのかと言われ、考えたら監視カメラがないエリアで、やろうとして、おっさんは逃げました。私は110番通報しながら追いかけたら、たまたまその先に火事があり、規制線があって、おっさんが捕まった。その道中でおっさんの自転車を蹴り変形させたけど、暴力を振るわれた被害者でした。おっさんは警察官にこの人がマスクしていないと訴えたけど、それは違法ではないから謝って終わりにしてくださいと言われた。でも私の氏名で前科が分かると私服刑事がすぐに来た。地元でも更生支援活動をしていると知られているので、おっさんに謝らせて終わりになった。おっさんは納得していなかったみたい。刑事さんは笑いながら傷害罪で被害届を出されたらあなたを逮捕しますよと言ったら、おっさんはサラリーマンのようで、会社が首になると弱気になった。世の中に変な奴がいるもんだ。

また手紙をください。時間が許す限り返事を書きますね。

誕生カードをお贈りします

誕生カード担当 M. ロザリア綾

主は恵みに富み、憐れみ深く忍耐強く、慈しみに満ちておられます。

(詩編 145 章 8 節)

新型コロナウイルスの流行で悲しいこと、大変なことがたくさんありますが、私たち全員が地球という一つの船の乗組員であることを自覚できました。私たちは皆、つながっていますね！ 協力し合って生きていきたいですね。

4月～8月生まれの皆さんに、誕生カードをお贈りしました。

お誕生日、おめでとうございます！

4月：T.S.さん K.Q.さん S.T.さん

5月：H.K.さん T.Y.さん S.A.さん

T.M.さん M.S.さん H.M.さん K.J.さん

T.Y.さん

6月：Y.I.さん D.M.さん K.N.さん

T.A.さん H.S.さん Y.N.さん Y.H.さん

K.A.さん A.M.さん I.Q.さん N.N.さん

T.S.さん M.S.さん T.Q.さん H.M.さん

K.M.さん

7月：N.N.さん T.K.さん T.O.さん

T.T.さん Y.T.さん T.F.さん

8月：S.H.さん T.F.さん M.F.さん

H.U.さん K.E.さん S.T.さん T.T.さん

H.Q.さん T.H.さん



偲ぶ会について

毎月 30 日、就寝前の短い時間（2～5 分）を使って祈りを求めている人の冥福を祈りましょう。次の祈りを参考にしてください。

主よ、この世を去った人々（名前を思い浮かべる）をいつくしみ深く顧みてください。

犯した罪を赦し、あなたの国に迎え入れ、ともに生きる喜びで満たしてください。

「偲ぶ会」への申し込み

希望者はご自分の名前

相手の方の名前（フルネームを載せていいか、イニシアルかも）

死亡年月日

一言：関係（両親・友人・被害者など）

お知らせ

ほんにかえるプロジェクトは6周年を迎え、支援活動をさらに充実させるために、出所後の支援活動も開始することになりました。

一つは出所後の仕事探し、一つは住まい探し。

仕事は刑務所内でも分類課に申し出れば刑務官がハローワークインターネットサービスにアクセスして探してくれるところもあるようですが、機能しているとは言えません。

民間ではヒューマンコメディ社から「チャンス」という刑務所や少年院向けの求人誌が発行されています。プロジェクトもその配布に協力してきました。

この事業の具体案はまだできていません。とりあえず希望者がいれば事務局までお知らせください。協力事業主は数社しかいませんが、もっと増やせるように営業活動も始めました。受刑者の雇用主になるにはいろいろ条件があります。自宅住所や年収といった個人情報も刑務所に公開する必要があります。トラブルも起きやすいので協力者がなかなか見つかりません。協力者を

大事にして、早く出ただけの人はご遠慮ください。本当に更生したい人だけ申し込んでください。住まい探しも東京近郊になります。

PJは生活保護を推奨していませんが、長期受刑者にはリハビリが必要で、本当の更生と自立のためには一時的な生活保護の受給は必要と考え、サポートしています。

生活保護法の住宅補助は53,000円までとなっています。敷金礼金も出してくれます。家具や家電の購入費用として40,000円まで支給は可能ですが、それだけではリサイクルショップに行っても冷蔵庫とガス台くらいしか買えません。リサイクル屋の知人がいますので、ショップよりは安く買えます。

PJは資金不足です。協力事業主を紹介することはできますが、面会に行かせる予算はありません。また負担をかけるので、面会を要求しないでください。

仕事と住まいのあるなしは更生に直接結びつくものです。この少ない資源をみんなで大切にしましょう。一人の裏切りは狭き門を閉ざし、他の人の更生も台無しにします。ご理解とご協力をお願いします。

編集後記

今号は無期懲役をテーマにしました。私はLB級の岐阜刑務所で13年間の受刑生活を送りました。そこには沢山の無期囚がおり、それぞれの人生があるにせよ、犯罪内容はやはり重いものでした。

その無期囚が死んでいくのを目の当たりにして、私は改めて罪というものを考えるきっかけにもなりました。言いたくないことですが、私は死刑反対です。刑務所に入るような犯罪者ですら死刑の話になると何故か正義の味方になって死刑制度を肯定するのです。

個人的には罪は償うべきと思います。でも人は誰であろうと他人を殺す権利はないと考えます。命は尊いものです。殺人と死刑は同じです。屁理屈で処刑するのは殺人と変わらないとさえ思います。

私はやくざをやっていた時も、マフィアをやっていた時も私刑にかかわっていました。その時の組織理論で判断し、処刑の命令を下していました。でも時間がたつとその判断は必ずしも正しくないというのわかってきました。

結論から言いますと、罪は自発的に感じるものであり、与えられる罰とは厳然の違いがあります。わかりにくいかもしれませんが、この活動を始めても更生しろと一度も言ったことはありません。一言、生きてほしい。生きるためにも過去を見つめ、更に生きることが更生と考えています。 汪 楠

<外部会員募集>

ほんにかえるプロジェクトは外部会員を募集しています。正会員の年会費は3000円 寄付もお待ちしています。

振込先

ゆうちょ銀行 10160-86239211

他行からの場合

ゆうちょ銀行0一八支店

(普) 8623921

口座名義：

ほんにかえるプロジェクト

ボランティアスタッフ募集

在宅作業

パソコン入力・文通スタッフ

自宅住所は公開しません。

プライバシー保護に細心の

注意をはらっています。

かえるプロジェクトの

出版物・印刷物

汪楠著「我的童年」500円

汪楠著「獄中書簡」500円

売上金はPJの活動資金になります。

発行所

〒134-0003

東京都江戸川区春江町5-15-31

ほんにかえるプロジェクト

事務局 電話 080-8811-5465

発行責任者 汪楠